

日本環境変異原学会第38回大会 一般公開講座へのお誘い

環境と食品の安全性を皆で科学しよう

私達の生活環境中には多種多様な化学物質が存在しています。それらの中には遺伝子(DNA)に傷をつけて突然変異や発がんをもたらすものがあります。ヒトの死亡原因の第1位を占めるがんに注目して学び、意見交換しましょう。

日時：平成21年11月25日(水) 午後6:00-8:00

場所：静岡県立大学小講堂

軽食を御用意しています(午後5:00-6:00)

対象：高校生・大学生・一般市民(参加費無料)

連絡先：静岡県立大学 環境科学研究所 生体機能学研究室(榊原啓之)

電話&FAX：054-264-5792、e-mail：jems2009@u-shizuoka-ken.ac.jp

1部 話題提供

1. 遺伝子(DNA)に傷をつけるとどうなるか？

(国際基督教大学 教養学部・教授 布柴達男)

2. 身の回りの変異・発がん物質の現状とその対策を考える

(静岡県立大学・学長 木苗直秀)

2部 実験してみよう

1. 食品からDNAを分離する

2. DNAの損傷と修復を観察する

指導：静岡県立大学 食品栄養科学部 増田修一

(財)食品農医薬品安全性評価センター 益森勝志



日本環境変異原学会 第38回大会 大会長 下位香代子

主催：日本環境変異原学会第38回大会組織委員会

共催：静岡県立大学、(財)食品農医薬品安全性評価センター
静岡県立大学グローバルCOEプログラム

後援：内閣府食品安全委員会、静岡県立大学環境科学研究所